

防災通信

羽津地区

Disaster Prevention HAZU District

令和 8(2026)年 3月 10日発行

【2025 年度号】

『年間活動報告』

発行 羽津地区連合自主防災会

羽津地区連合自主防災会は自治会長主導の体制に移行して3年が経過しました。災害時に役に立つようにシナリオなしの防災訓練を実施するなど実践的な防災活動を展開してきました。3年間繰り返し実践的な活動をしてきた中で、徐々に自主的な活動が芽生えてきているような気がしています。その証として今年度三重県主催の『みえの防災大賞』で昨年度の『防災奨励賞』に続いて『防災特別賞』を受賞いたしました。また、新たな取り組みとして『地域合同図上訓練』を行いました。災害時に地域、学校、医療機関、行政がスムーズに連携できることを目的にしており、地域主導の開催は全国的にも珍しい取り組みです。来年度も大災害に向けてより強固な防災体制を築いていきたいと思っていますので皆様のご理解、ご協力をお願いします。

羽津地区連合自主防災会 会長 内田 寛

★【みえの防災大賞 防災特別賞受賞】 (12月開催)

羽津地区連合自主防災会は昨年度の「防災奨励賞」に続いて今年度は「防災特別賞」を受賞しました。「防災特別賞」は過去に「みえの防災奨励賞」を受賞したことがある団体のうち、避難行動要支援者対策や避難所運営対策など、地域が主体となって地区防災計画の策定につながるような取り組みについて、他の団体でも特に参考となる活動を行っている団体に贈呈される賞です。羽津地区連合自主防災会の取り組みが、第三者機関から評価を受けたことにより、今後も自信をもって積極的な活動を続けて災害に強い地域づくりを行っていききたいと思っています。



内田会長と一見知事

★【地域合同図上訓練】 (9月開催)

「地域合同図上訓練」は地域（連合自治会役員）、学校（地区内小中学校校長・教頭）、医療機関（四日市羽津医療センター）、行政（危機管理課、市民生活課、市民センター、教育委員会、保健所）が一堂に会し平日の昼間に巨大地震が発生し大津波警報が発表されたという想定で行われました。このような地域主導の開催は全国的にも珍しい取り組みです。内容は時系列的に状況付与カードを提示して、それぞれの組織がマニュアルに沿って災害対応を発表し、組織間の認識に齟齬がないか確認しました。各組織の災害対応を聞くことで認識の違いによる課題も抽出できました。来年度は福祉施設にも参加していただき、避難行動要支援者対応にも取り組む予定です。本訓練は災害時に各組織の連携がスムーズに実施できるように継続的に行っていききたいと思っています。



★【防災サバイバル体験学習】（5月開催）

羽津地区の恒例行事となった小中学生を対象とした「防災サバイバル体験学習」は、真夏の猛暑を避けるため今年度より5月開催に移行しました。初日は「まち歩き」と「防災マップづくり」に始まり、「応急処置訓練」、避難所の仕組みを学ぶ「避難所なんナン?」、「飯盒炊爨^{すいごん}」体験、「キャンプファイヤー」を行いました。2日目は自助・共助を学ぶ「防災ボードゲーム」、「非常持ち出し袋作成」を行いました。参加者は毎年増加傾向にあり今年度は52名でした。子どもたちのお世話をさせていただく100名を超える地域の方の協力体制も素晴らしいです。他地区からの視察も多く、実施に向けて問い合わせも来ています。今後も新しいことを取り入れながら魅力ある事業にしていきたいと思っています。（協力 羽津分団、羽津北小学校 羽津小学校 羽津中学校 羽津地区小中学校 PTA、育成会）



防災マップ発表



飯盒炊爨体験



就寝用大型テント



まち歩き

★【総合防災訓練（地震・津波）】（12月開催）

総合防災訓練は例年同様、各自治会で自助、共助行動を、指定避難所で、シナリオ無しの避難所設営訓練、避難所運営訓練を行いました。今年度はマイナンバーカードによる避難者受付を行いました。運営訓練では在宅避難者のための支援施設の設置、また、四日市羽津医療センターの協力を得て医療トリアージの実践を行いました。さらに看護師、社会福祉士と民生・児童委員が協力して要配慮者を適切な場所へ移送する^{ふる}篩分け訓練も実施しました。ブース（耐震化、家具固定、非常持ち出し袋、災害時のトイレ、避難所での衛生対策、水消火器）を設置し、参加者（組長）への啓発活動も実施しました。



マイナンバーカード受付



要配慮者 篩分け



ブース設営

★【図上訓練（風水害）】（2月開催）

1月に第2回ワークショップを行い市危機管理課職員に風水害の防災情報について講演して頂きました。それを受けてブロック毎に図上訓練（風水害）を行いました。参加者は自治会長、防災隊長、マリーゴールド、民生・児童委員で内容は第1部で「自宅のリスクと避難行動」、第2部で「要支援者対応」を行いました。第1部は防災カルテを見て自宅のリスクを確認し、ワークシートを使って避難の有無、避難先、避難に要する時間、避難のタイミングを確認しました。第2部は、台風の防災情報、画像を時系列で提示し、地図にプロットした要支援者の避難の必要性、手段、避難先、タイミングを検討しました。風水害対応は時系列的に避難するまでに準備する時間があるため、『警戒レベル』『避難情報』『防災気象情報』をよく理解しておくことが重要です。



図上訓練



ワークショップ